



自動化書庫システムの長期運用にむけて —国際基督教大学運用事例報告 pt.4—

Toward long-term use of AutoLib.

Case study pt.4 of International Christian University Library

黒澤公人*

抄 錄

図書館は時間の経過とともに、蔵書が増加し、常に増加する図書をどのように収納するか格闘してきた。自動化書庫は高密度に図書を収納することが出来るが、長期運用していくと入庫する図書が増えしていく。自動化書庫への入庫が増えるに従い発生する問題や自動化書庫から大量の図書を出庫する方法について検討した。また、そのような処理を行うために自動化書庫が持つべき機能についても検討した。

目 次

1. 自動化書庫の長期運用
2. 図書の増加とその対応
3. JCCと自動化書庫の共通点
 - 3.1 図書の所在管理
 - 3.2 フリーロケーションという概念
 - 3.3 図書の選定技術
 - 3.4 自動化書庫への移行
4. 自動化書庫の利用計画
 - 4.1 自動化書庫の利用の割合
 - 4.2 自動化書庫の利用方法の確立
 - 4.3 入庫資料の選定
5. 自動化書庫の長期運用による検討課題
 - 5.1 入庫率50%に達した場合
 - 5.2 入庫率70%に達した場合
 - 5.3 入庫率100%に達した場合
6. 大量出庫処理を行う場合
 - 6.1 大量出庫作業を行う場合の問題点
 - 6.2 大量出庫資料の選定
7. 自動化書庫システムに求められる機能
 - 7.1 自動化書庫のコンテナ使用状況の一覧
 - 7.2 統計機能の強化
 - 7.3 図書を連続して大量出庫指示する機能
 - 7.4 コンテナの固定入庫、フリーロケーションの設定を一括変更する機能
 - 7.5 モニタリング機能
8. メーカーの役割 コンサルティング機能
9. おわりに

○ 1. 自動化書庫の長期運用 ○

図書館を建築する場合、収納可能蔵書数、座席数などを考慮して設計されます。現在、多くの図書館で自動化書庫の導入が検討されています。自動化書庫は大量の図書を高密度に収納できます。

図書館が長期運用をしていくと、図書館の蔵書は収納能力の限界に向かって、増加して行きます。当然ながら図書の増加とともに自動化書庫の入庫冊数も増加して行きます。

国際基督教大学図書館の導入での経験から自動化書庫の入庫冊数の増加していく過程で何を検討しなければならないのか予測してみたいと思います。

○ 2. 図書の増加とその対応 ○

まず、本学が創立して50年以上が経過する間、図書館がどのように変化してきたのかを見てみましょう。創立当時は数万冊だった蔵書数が、現在63万冊になっています。平均すると年1万冊以上の図書が増加するため、十数年おきに図書の収納能力を拡大する必要に迫られました。

*くろさわ きみと 国際基督教大学図書館 平成17年10月7日受理

大学図書館における「個人情報保護」

“Protection of Personal Information” in Universities’ library services

藤倉 恵一*

抄 錄

2005年4月1日、「個人情報の保護に関する法律」が完全施行された。図書館においても例外ではなく、利用者情報や貸出履歴をはじめとする個人情報を多く蓄積している以上、その保護には細心の注意を払う必要がある。そのいっぽうで、個人情報保護について社会的に話題となっていることから、逆に無用な制限を施したり、過剰な反応をしたりする図書館も少なくない。本稿では、大学図書館におけるサービスの現場を中心に、大学図書館に携わる者が注意を払うべきポイントを述べる。

目 次

1. はじめに
 2. 「図書館の自由に関する宣言」と個人情報保護制度
 3. カウンター業務と個人情報
 - ・利用者登録
 - ・貸出
 - ・督促・資料到着その他の通知と掲示
 - ・ILLと「第三者提供」の問題
 4. 利用者管理と個人情報
 - ・カウンターの端末とその周辺
 - ・サーバに蓄積されたデータ
 - ・メールに関する問題
 - ・利用者に開放した端末
 - ・利用者行動の「管理」
 5. 資料にまつわる個人情報
 - ・名簿をめぐる話題から
 - ・発注時の注意事項
 - ・目録と個人情報
 - ・人権・プライバシーを侵害した資料
 6. おわりに～図書館が心がけること
- 参考文献
参考資料
「個人情報保護の保護に関する法律（抜粋）」

○ 1. はじめに ○

2005年4月1日、「個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）」が完全施行された。また、各種法人・行政団体等にそれぞれ応じ

た法律・条令類の施行・制定が相次いた。

社会的には、近年主にインターネットを通じた顧客情報の漏洩・流出事件が相次いでおり、個人情報保護法の完全施行にあたって世間の関心も多く寄せられ、2004年の夏・秋頃からビジネス雑誌の特集や解説書の類が相次いで見られた（2004年夏頃からの出版点数は100を超える）。

図書館界においても例外ではない。完全施行前の半年間だけでも、2004年9月の春日井市図書館メールアドレス流出事故（お知らせメールの宛先指定がBCCではなくCCIになってしまい、398件のアドレスが流出した）、10月の三重県立図書館利用者データ盗難事件（図書館システム会社のSEが持ち出した利用者約13万件のデータが入ったノートパソコンが盗難に遭った）、2005年2月の高槻市立中央図書館利用者登録情報盗難事件（カウンターの上に置かれていた新規登録利用者89名のリストが盗まれ、リスト中の女性宅に図書館団体を名乗る人物から不審な電話があった）といった事件が相次いた。

筆者の所属している大学でもそうだったが、特に私立学校の場合は「個人情報保護法」の直接の

*ふじくら けいいち 文教大学越谷図書館 平成17年10月7日受理



東亞同文書院に魅せられたフツーの司書が出来たこと Serendipity — A Librarians View of Toa-Dobun-Shoin

成瀬さよ子*

抄 錄

レファレンス係に異動してから「幻の名門校・東亞同文書院」に関心を持つようになった。東亞同文書院『大旅行誌』の内容一覧を作成してWeb上に公開した。また『東亞同文書院関係目録』を出版して海外研修へ。帰国後はあちこちで報告会等を開催。現在もアメリカのライブラリアンや研究者と交流している。『目録』を頼って来館される国内・外の研究者やOB・学生等の対応にも追われている。一方愛知大学は、COE予算を獲得。昨年から東亞同文書院の遺産の公開に向けて活動を開始した。この大きなうねりに乗って、多忙ながらも楽しみながら仕事をしている。アウトソーシングや職員削減・高齢化の中で、何が出来るか・またしなければならないか、図書館の方向性も見えてきた。

目 次

1. はじめに
2. 概略「東亞同文書院」
3. 東亞同文書院『大旅行誌』の内容一覧
4. 『東亞同文書院関係目録：愛知大学図書館収蔵資料を中心に』の出版
5. 海外研修
6. 魅せられた多くの人達
7. 引き継がれた愛知大学
8. 終わりに

○ 1. はじめに ○

1995年にレファレンス担当になって以来、度々遠方より来客がありまた電話や手紙などでも、東亞同文書院卒業生の書いた論文や記事の調査依頼を受けるようになった。その度に第何期生の方でしょうか?と尋ねては、該当期生の学生が書いた図書を見つけ内容を調べて班毎に書かれた日誌・紀行文を探していた。そしてご遺族の方たちに複写して資料を提供していたが、どの方も共通して私たち図書館員に対して非常に真摯な態度をとられたことに驚かされた。既に初老の男性は、

「親父は早くに亡くなり顔も知らずに育ちましたが、これでお袋自慢の親父の方が良く分かります。ありがとうございました。」と丁寧な物腰で深々とお辞儀をされ、目にはうっすらと光るもののが。さらに後日御礼のお手紙を頂戴した…こうしたことが度重なったので、これは尋常な思いではない、一体東亞同文書院はどんなところだったのか?遺族の方でもあれほど思い入れが深い理由は?…興味を持った最初だった。

○ 2. 概略「東亞同文書院」 ○

(1) 日清貿易研究所

尾張に生まれた荒尾精は、大西郷の再来とか東洋の事情に精通すること彼の右に出る人なしと言われた程の人物である。彼は陸軍士官学校時代に根津一を知り、軍服を脱いで清国に出発した。そこで国際人岸田吟香の上海楽善堂を活動の拠点とし、日本の天命は、中国の改革を助け日本と中国の提携の実現を期すことを決意した。そのためには、強兵よりも富国が必要で、日中の貿易によっ

*なるせ さよこ 愛知大学豊橋図書館 平成17年10月5日受理



災害救急マニュアル『文化財防災ウィール』

—図書館にもWheelを—

Disaster emergency manual

“The Japanese-language version of the Emergency Response and Salvage Wheel” to the Library

豊田 裕昭*

抄 錄

2004年7月、文化庁が「Emergency Response and Salvage Wheel」の日本語版である『文化財防災ウィール』を作製し、既に博物館や美術館に配布しました。この『文化財防災ウィール』は、形状的にも円盤形というユニークなものであり、内容的にも災害時における資料に対する救急のマニュアルです。

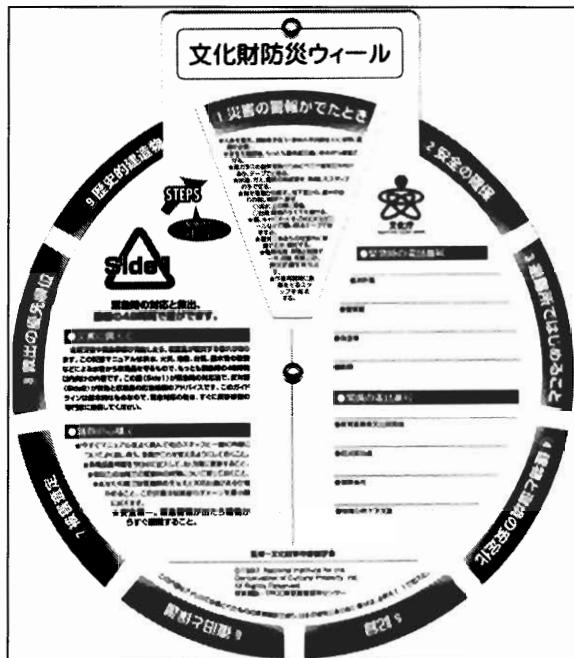
オリジナル版は、1997年に米国で作製されたものですが、既に英語版以外にもスペイン語、中国語、オランダ語、フランス語などに翻訳されています。日本語版の作製に当たってはTRCC東京修復保存センターによる努力が大きく、〈防災オレンジマニュアル〉としての紹介がきっかけになります。

この『文化財防災ウィール』については、文化財のみのものではなく、また博物館や美術館のみのマニュアルでもありません。図書館や文書館でも有効に使えるものとして紹介します。

目 次

1. はじめに
2. 『文化財防災ウィール』とは
3. オリジナル版の作製者
4. 『文化財防災ウィール』の形状
5. 『文化財防災ウィール』の内容
 - 5-1. Side 1
 - 5-2. Side 2
6. 『文化財防災ウィール』の作製経緯
 - 6-1. TRCC東京修復保存センター編
 - 6-2. 文化庁編
 - 6-3. 文化財保存修復学会編
7. 『文化財防災ウィール』の配布
8. マニュアル：最も基本的な対策
9. おわりに

付録『文化財防災ウィール』の内容抜粋



*とよだ ひろあき 国立国会図書館 平成17年10月1日受理

「訊かれる」大学図書館を目指して —私の実践的『資料を知る、利用者を知る』— A library service anyone can rely on !

井上真琴*

抄 錄

大学図書館が利用者から信頼され、問題解決にあたって訊かれる存在になるために何が重要なのか。それは図書館がもつ、情報・資料を「『知』に転換する仕組み」を図書館員が理解することである。情報や資料が図書館という仕組みを通ることで、「点」でも「線」ではなく、「面」として立ち上がる魅力を知り、それを利用者に伝えることが必要となる。

するために図書館員はどのような「資料を知る」「利用者を知る」訓練を行えばよいのか。日常生活での情報の活かし方、レファレンス業務や情報探索講習会などの実践、インターネット情報の評価など、具体的な実践事例を示して図書館員のもつべき基本的脚力について考える。

目 次

私の好きな街－名古屋

『図書館に訊け！』が世に出るまで

「知」に転換する仕組み

書誌の世界を知ること

「情報」を判断する力と図書館

シャラポワのバスト

バックナンバー1冊が420万円?!

図書館不活用術

打開の道は

レファレンスとは、

講習会の未来形は？

裸のHTML

図書館が持

四百三十九

○ 私の好きな街－名古屋 ○

同志社大学からまいりました井上です。今も紹介がありましたけれども、同志社大学では毎年のように愛知県体育館を借りて名古屋入試を行っています。それで、7泊8日ぐらいの出張がありまして、98年に来ました時に随分楽しい街だなと思いました。その時に南山大学のお友達のところに寄り、本山から八事ってところへ抜ける道が散歩し

ていて実にさわやかな道だなあと感じまして、それ以来だいたい月に1回か2回、そこを歩くためだけに新幹線に乗って遊びに来ている。で、鶴舞（つるま）公園って言うんですか？駅は鶴舞（つるまい）でいいんですか？あの辺の本屋さんに寄つて、最後は大須の観音様にお参りして歩いて帰るというコースで頻繁に遊びに来ています。

○『図書館に訊け！』が世に出るまで ○

今日は「訊かれる」大学図書館を目指して”ということで、お話をさせていただきます。内容的には、利用者がこういうふうに使いたい、ああいうふうに使いたいということに、どれだけ耐えられるような図書館員を作っていくかということで、実際にはどのように部下をいじめているか（笑）、指導しているか、というところを中心にお話ししたいと思っています。

『図書館に訊け！』は、結構突貫工事的にダダダッと半年ぐらいでまとめた本なのですが、そもそも、筑摩書房から依頼があったきっかけは、小

*いのうえ まこと 同志社大学総合情報センター 平成17年10月20日受理